



米子市福市考古資料館通信

第5号

2022年6月



「古代体験」－勾玉づくり・火起こし・弓矢－

福市考古資料館では、来館の希望者へ「古代体験」として、勾玉作り、火起こし、弓矢体験を提供しています。来館の際にはぜひ体験してみてください。

勾玉作り

古代人が身に着けていた勾玉は、宝石の装身具であるとともに「霊力」があると信じられてきました。その形は動物の牙や胎児の形とも言われています。「ひすい」や「めのう」で作られ青や緑色等をした美しいものです。

「古代体験」勾玉作りでは、加工しやすい石（ろう石）を用いて、紙やすりなどを使って作ります。

（材料費として、300円をいただきます。）



勾玉作りセット

火起こし体験

今はスイッチ一つで火がつきますが、古代人は、木と木をこすって摩擦で火をおこしていました。

火を起こす方法には、手で棒を回すキリモミ法、弓の糸で回す弓キリ法、火打石を使う方法などがあります。

資料館では、神社などで使われる「舞ギリ法」で火起こし体験を提供しています。

（「舞ギリ」を無料でお貸ししています。）



火起こし体験

弓矢体験

古代人は、槍や弓矢を使ってシカやイノシシ等の動物をとらえて食糧としていました。縄文時代の遺跡からは、弓矢の先に着けた石の矢じりが出土しています。

石の矢じりは、黒曜石やサヌカイトなど鋭い刃が作れる石材を使って巧みに作られています。

資料館では、竹で作った簡単な弓矢を使って福市史跡公園の片隅で、的に向かって弓矢体験を提供しています

（弓矢セットを無料でお貸ししています。）



弓矢体験

展示品紹介 動物の骨（陰田第9遺跡・目久美遺跡）

展示室では、陰田第9遺跡と目久美遺跡から出土した縄文時代の動物の主な骨を展示しています。

陰田第9遺跡からは、シカ、イノシシ、タイ、フグ、貝類が出土しており、目久美遺跡からは、シカ、イノシシを主体に、サル、アナグマ、カワウソ、タンチョウヅル、コウノトリ、ヒメウ、カワウ、トビ、タイ、クロダイ、スズキ、ブリ、マグロ、ウマズラハギ、メジロザメ、クジラ、貝類が出土しています。

このうち、シカ、イノシシ、タイ、マグロ、クジラなどの骨を展示しています。

また、犬の骨や糞が出土しており、動物の狩りに使っていたと考えられます。

6千年前の縄文人たちが、タンパク源として動物や魚等を捕獲、採取して食べていたことを物語ります。

森と海の豊かな資源を背景に暮らしていた生活が想像されます。



上 犬頭骨 下 タイ・マグロ骨

福市遺跡の四季

福市史跡公園には、コロナウイルスの影響もあってか、近場の野外でのレクリエーションの場として多くの市民や児童生徒が訪れています。

例年では五月初頭に「福市つつじまつり」が行われていましたが、昨年に続き今年もコロナ禍で中止になりました。しかしつつじはきれいに咲いていましたので、市民の方が散策に訪れていました。

梅雨前のこの季節には、学校や幼稚園の遠足で池のメダカを獲ったりして過ごしています。



福市史跡公園のつつじ

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・fax 0859-26-3784（同番号）
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）